熊本県福祉サービス第三者評価結果公表基準（概要版）

1 福祉サービス事業者情報

(1) 事業者概要

事業所名称： (施設名) 山鹿中央保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者) 園長 松本 敬士	開設年月日： 昭和50年 4月 1日
設置主体： 社会福祉法人 七城園 経営主体： 社会福祉法人 七城園	定員： 80名 (利用人数) (99名)
所在地：〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿1080	
連絡先電話番号： 0968-44-3653	FAX番号： 0968-44-5113
ホームページアドレス	http://www.ans.co.jp/n/yamagachuo/

(2) 基本情報

サービス内容(事業内容)	施設の主な行事
0～6歳までの保育 一時保育 延長保育	入園式 お見知り遠足 保育参観 お泊り保育 ボディペインティング 月見団子作り 交流会 運動会 人形劇 芋ほり遠足 親子会食会 秋の遠足 施設訪問 餅つき おゆうぎ会 クリスマスパティー たこあげ 豆まき マラソン大会 ひなまつり敬老会 お別れ遠足 お別れパーティー 卒園式 修園式
居室概要	居室以外の施設設備の概要
保育室5室 ランチルーム トイレ5室 調理室 相談室 事務室 会議室 他	園庭 大型遊具 プール 倉庫 駐車場 オートロック 警備保障 ジオパワーシステム 他

2 施設・事業所の特徴的な取組

絵本・紙芝居の読み聞かせ(保育にテレビを用いない)	
親子図書貸出	誕生会での手作りプレゼント
個人アルバムの作成	体育・英語教室
ふれあいタイム	
フッ化物洗口	

3 評価結果総評

特に評価の高い点

I. 1日を通して安心して過ごせるような長時間保育の取り組みが行なわれています。

保育室は明るく掃除の行き届いた安心できる空間になっており、3歳未満児の保育室には地中熱を利用した24時間計画換気システム(ジオパワーシステム)が導入されています。

当保育園では、子どもの家庭での様子や園での様子を保育者と保護者が共有することで、子どもの変化に柔軟かつ適切に対応できるように努められています。

メリハリのある活動の中で長時間を見越した食事や手づくりおやつが提供されており、延長保育における軽食の提供も行われています。延長保育の担当保育士のうち1名は、日々同じ専任保育士を配置されるなど、子どもが安心して過ごせるための配慮がうかがえます。

II. 理念・方針が明確にされています。

理念(子どもの輝く未来のために「生きる力」の基礎を育てる)とともに、保育所の使命や役割を読み取ることができる方針が、玄関や各クラスに掲示されています。

保護者には入園前の個人面談時に説明され、園のしおりの配布や園舎各所への掲示などにより周知が図られています。

III. 子供に関する記録が丁寧に行われています。

連絡帳からは、保護者との細やかな情報交換の様子が読み取れます。児童票や指導計画、その他の保育に関する記録についても細やかに整備されており、その丁寧な記録からは子どもをきちんと見て状況を把握されていることが伝わってきます。

改善を求められる点

I. 理念の実現に向けた事業計画の更なる充実が求められます。

理念の実現に向けた中・長期計画及びそれを踏まえた単年度の事業計画が策定されていますが、単年度の事業計画の具体性については十分とは言い難い状況が見受けられます。理念の実現に向けて確実に歩みを進めていくためには、単年度の事業計画に掲げた目標を達成していくためのより具体的な計画が求められます。また、計画策定への更なる職員の参画も期待したいところです。

II. 子どものプライバシー保護に対する更なる取り組みを期待します。

子どもを主体とした保育に取り組まれている様子はいかがでしたが、排泄や着替えの場面における子どものプライバシー保護への配慮や羞恥心を育む取り組みについては更なる充実を期待したいところです。また、プライバシー保護についてのマニュアル等の整備や職員への周知も今後の課題と言えます。

III. 自己評価により改善課題を明確にした上での改善活動を期待します。

自己評価への取り組みは見受けられますが、その結果の細かな分析による課題の抽出については十分とは言い難い状況が見られます。組織の強みや改善点を明確にすることで、より具体的な目標設定や計画策定を行い、改善活動に繋がれることを期待します。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント(400字以内)

(H28. 3.14)

「平成24年度熊本県安心こども基金特別対策事業(保育所等緊急整備事業)の追加整備」により、急遽保育園舎の全面改築を行うことになりました。その時の条件として園舎完成後2年以内に第三者評価を受審することになり、園舎は平成25年12月に完成しました。

そこで、今回第三者評価を受審することとなり、「医療・福祉ネットワークせいわ」をお願いをしました。

受審前の説明会に始まり、評価項目のチェック、各種マニュアルの再検討や整備状況の見直し等を行いながら、職員間の共通認識を深め、また問題点を洗い出してきました。

今回の調査結果を踏まえ、多様化する保育ニーズに応えるため、特色はさらに伸ばし、改善を求められる点や課題である点の一つひとつ克服しながら、更なる保育の質の向上、発展と園の円滑な運営に努めてまいります。

(別記)

(公表様式1)

熊本県福祉サービス第三者評価結果公表基準

【保育所版】

評価機関

名 称	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所 在 地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号
評価実施期間	平成28年1月27日～1月28日
評価調査者番号	第12-007号
	第09-006号
	第15-001号

1 福祉サービス事業者情報

(1) 事業者概要

事業所名称： (施設名) 山鹿中央保育園	種別： 保 育 所
代表者氏名： (管理者) 園長 松本 敬士	開設年月日： 昭和50年 4月 1日
設置主体： 社会福祉法人 七城園 経営主体： 社会福祉法人 七城園	定員： 80名 (利用人数) (99名)
所在地：〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿1080	
連絡先電話番号： 0968-44-3653	FAX番号： 0968-44-5113
ホームページアドレス	http://www.ans.co.jp/n/yamagachuo/

(2) 基本情報

サービス内容(事業内容)	施設の主な行事
0～6歳までの保育 一時保育 延長保育	入園式 お見知り遠足 保育参観 お泊り保育 ボディペインティング 月見団子作り 交流会 運動会 人形劇 芋ほり遠足 親子会食会 秋の遠足 施設訪問 餅つき おゆうぎ会 クリスマスパーティー たこ あげ 豆まき マラソン大会 ひなまつり敬老会 お別れ遠足 お別れ パーティー 卒園式 修園式
居室概要	居室以外の施設設備の概要
保育室5室 ランチルーム トイレ5室 調理室 相 談室 事務室 会議室 他	園庭 大型遊具 プール 倉庫 駐車場 オートロ ック 警備保障 ジオパワーシステム 他

職員の配置

職 種	常 勤	非常勤	資 格	常 勤	非常勤
園長	1		社会福祉主事任用資格	3	
副園長	1		中学・高校教諭	1	
保育士	14	2	保育士	14	2
看護師		1	看護師		1
栄養士	1		栄養士	1	
調理師		2	調理師	1	2
			幼稚園教諭	12	2
			ホームヘルパー1級	1	
			ホームヘルパー2級	1	
合 計	17	5	合 計	34	7

資格の種別は、保健・福祉・医療に関するものを記入してあります。

複数の資格を持ち重複計上している場合があるため、職種と資格の数は必ずしも一致しません。

2 理念・基本方針

理念

子どもの輝く未来のために「生きる力」の基礎を育てる

基本方針

子どもが安心感と信頼感を持って活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止める。子ども一人ひとりの発達過程に応じて保育する。

子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整える。

乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びの中で、子どもが自発的、意欲的に関われる環境を構成する。

家庭や地域社会との連携を図りながら、保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援を行う。

3 施設・事業所の特徴的な取組

絵本・紙芝居の読み聞かせ(保育にテレビを用いない)

親子図書貸出

誕生会での手作りプレゼント

個人アルバムの作成

体育・英語教室

ふれあいタイム

フッ化物洗口

4 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成27年 6月12日(契約日) ~ 平成28年 3月14日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	1回(平成 年度)

5 評価結果総評

特に評価の高い点

I. 1日を通して安心して過ごせるような長時間保育の取り組みが行なわれています。

保育室は明るく掃除の行き届いた安心できる空間になっており、3歳未満児の保育室には地中熱を利用した24時間計画換気システム(ジオパワーシステム)が導入されています。

当保育園では、子どもの家庭での様子や園での様子を保育者と保護者が共有することで、子どもの変化に柔軟かつ適切に対応できるように努められています。

メリハリのある活動の中で長時間を見越した食事や手づくりおやつが提供されており、延長保育における軽食の提供も行われています。延長保育の担当保育士のうち1名は、日々同じ専任保育士を配置されるなど、子どもが安心して過ごせるための配慮がうかがえます。

II. 理念・方針が明確にされています。

理念(子どもの輝く未来のために「生きる力」の基礎を育てる)とともに、保育所の使命や役割を読み取ることができる方針が、玄関や各クラスに掲示されています。

保護者には入園前の個人面談時に説明され、園のしおりの配布や園舎各所への掲示などにより周知が図られています。

III. 子供に関する記録が丁寧に行われています。

連絡帳からは、保護者との細やかな情報交換の様子が読み取れます。児童票や指導計画、その他の保育に関する記録についても細やかに整備されており、その丁寧な記録からは子どもをきちんと見て状況を把握されていることが伝わってきます。

改善を求められる点

I. 理念の実現に向けた事業計画の更なる充実が求められます。

理念の実現に向けた中・長期計画及びそれを踏まえた単年度の事業計画が策定されていますが、単年度の事業計画の具体性については十分とは言い難い状況が見受けられます。理念の実現に向けて確実に歩みを進めていくためには、単年度の事業計画に掲げた目標を達成していくためのより具体的な計画が求められます。また、計画策定への更なる職員の参画も期待したいところです。

II. 子どものプライバシー保護に対する更なる取り組みを期待します。

子どもを主体とした保育に取り組まれている様子はいかがでしたが、排泄や着替えの場面における子どものプライバシー保護への配慮や羞恥心を育む取り組みについては更なる充実を期待したいところです。また、プライバシー保護についてのマニュアル等の整備や職員への周知も今後の課題と言えます。

III. 自己評価により改善課題を明確にした上での改善活動を期待します。

自己評価への取り組みは見受けられますが、その結果の細かな分析による課題の抽出については十分とは言い難い状況が見られます。組織の強みや改善点を明確にすることで、より具体的な目標設定や計画策定を行い、改善活動に繋がられることを期待します。

6 第三者評価結果に対する事業者のコメント（400字以内）

(H28. 3.14)

「平成 24 年度熊本県安心子ども基金特別対策事業(保育所等緊急整備事業)の追加整備」により、急遽保育園舎の全面改築を行うことになりました。その時の条件として園舎完成後 2 年以内に第三者評価を受審することになり、園舎は平成 25 年 12 月に完成しました。

そこで、今回第三者評価を受審することとなり、「医療・福祉ネットワークせいわ」にお願いをしました。

受審前の説明会に始まり、評価項目のチェック、各種マニュアルの再検討や整備状況の見直し等を行いながら、職員間の共通認識を深め、また問題点を洗い出してきました。

今回の調査結果を踏まえ、多様化する保育ニーズに応えるため、特色はさらに伸ばし、改善を求められる点や課題である点の一つひとつ克服しながら、更なる保育の質の向上、発展と園の円滑な運営に努めてまいります。

7 第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

(参考) 利用者調査の手法等

調査の手法	対象者	対象数(人)	基準数に満たない場合の理由
アンケート調査	利用者本人	54	
	家族・保護者		
聞き取り調査	利用者本人		
	家族・保護者		
観察調査	利用者本人		

第三者評価結果

すべての評価細目について、判断基準(a・b・cの3段階)に基づいた評価結果を表示する。
評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象 福祉サービスの基本方針と組織

- 1 理念・基本方針

		第三者評価結果
- 1 - (1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	- 1 - (1) - 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>理念に沿って保育方針も分かりやすく表されており、園が目指す保育の方向性が読み取れます。また、職員にも浸透しており、保育の実践への反映に努められています。</p> <p>保護者には入園前の個人面談で説明を行い、園のしおりの配布や掲示により周知が図られています。</p>		

- 2 経営状況の把握

		第三者評価結果
- 2 - (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	- 2 - (1) - 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>研修や所属している団体等を通じて社会福祉事業全体の動向が把握されています。地域の福祉ニーズ等に関しては、園長会や地域の広報誌等で、乳幼児数の推移や保護者の就労状況、少子化の動向等のデータを把握し、保育ニーズの分析に努められています。</p>		
3	- 2 - (1) - 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育内容の分析が行なわれ、職員体勢や人材育成に取り組まれています。適材適所など人員配置を工夫することにより保育の質の確保にも努められています。また、職員への聴き取りや現状把握を行ないながら、業務内容の見直しや軽減などの改善にも取り組まれています。各種委員会を組織し、園児や保護者の満足度を高めるための活動にも取り組まれています。</p>		

- 3 事業計画の策定

		第三者評価結果
- 3 - (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	- 3 - (1) - 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>理念の実現と保育園の健全な運営持続に向け、地域のニーズに基づく事業運営や利用者満足度を満たすための取り組みなどを示した中・長期計画が策定されています。</p>		
5	- 3 - (1) - 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>単年度の事業計画は、中・長期計画を踏まえて策定されていますが、目標達成に至るまでの具体的な計画といった視点に立った場合、十分とは言えない状況が見受けられます。今後は、より具体的に道標となり得る単年度計画を策定されることが求められます。</p>		

- 3 - (2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	- 3 - (2) - 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>事業計画は、園長及び副園長並びに主任保育士が草案をまとめ、リーダー保育士の参画の下で策定されています。事業計画の実施状況の評価については、職員会議等において行われており、見直しにも繋がられています。しかし、職員の意見の集約や運営への反映が組織的に行われることについては今後の課題と捉えます。</p>		
7	- 3 - (2) - 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保護者へ園のしおりを配布し、園長の説明により周知が図られています。随時、園だよりやクラスだよりでも事業計画に関する情報が提供されており、アンケート調査や連絡帳を通して保護者の意見の集約にも努められています。</p>		

- 4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
- 4 - (1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	- 4 - (1) - 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>指導計画や記録類が細やかで丁寧に整備されていることから、子どもの状況をしっかり観察し把握されていることがうかがえ、保育サービスの質の向上に努められていることも伝わってきます。</p> <p>サービスの質の向上に向けて委員会が組織されていますが、活動内容の更なる充実などは今後の課題と捉えます。</p>		
9	- 4 - (1) - 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員会議等で課題が示され、職員間で検討が行われています。今後の課題としては、改善の優先順位や期限等を明確にし、改善策の効果確認や評価・見直しを確実にこなすための仕組みづくりが挙げられます。</p>		

評価対象 組織の運営管理

- 1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
- 1 - (1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	- 1 - (1) - 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園長の役割は、職務分掌に明記されており、職員会議において表明されています。有事における役割についても周知されています。</p>		
11	- 1 - (1) - 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>法令や倫理等を理解するために、積極的に研修に参加されています。遵守すべき法令等に関するマニュアル等が整備され、職員への周知に努められています。</p>		

- 1 - (2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	- 1 - (2) - 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a ・ b ・ c
<コメント> 園長は保育の状況把握をはじめとし、保育記録の点検や職員へのアドバイスなど、保育の質の向上に向けて意欲的に取り組まれています。サービス向上委員会や職員研修会などでも進んで発言され、指導力を発揮されています。		
13	- 1 - (2) - 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a ・ b ・ c
<コメント> 園長は環境整備や業務改善委員会に積極的に関わりをもち、指導力を発揮されています。職員とのコミュニケーションを大切にされ、早めの問題解決を心がけられています。		

- 2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
- 2 - (1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	- 2 - (1) - 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a ・ b ・ c
<コメント> 職員のキャリアアップに積極的に取り組み、幼稚園教諭の免許を取るための支援などが行われています。職員の負担軽減や有給休暇の取得促進、家庭の事情による突発的休暇への対応など、保育サービスの充実や働きやすい職場環境の整備に熱心に取り組まれています。		
15	- 2 - (1) - 総合的な人事管理が行われている。	a ・ b ・ c
<コメント> 職員の役割などについては職務分担表に明記されています。職員には「本園の望ましい保育士像」(印刷物)が配布されています。人事考課については、その導入が待たれます。		
- 2 - (2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	- 2 - (2) - 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a ・ b ・ c
<コメント> 有給休暇の取得や時間外労働の状況を集計し、就業状況の把握に繋がられています。職員の就業に関する意向については面談で聴取され、人員配置の検討の際に考慮されています。 職員の健康診断は定期的実施されています。悩み相談には、副園長や主任保育士が主に対応されており、女性ならではの相談しやすい雰囲気づくりに配慮されています。今後は、福利厚生事業の充実が図られることを期待します。		
- 2 - (3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	- 2 - (3) - 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a ・ b ・ c
<コメント> 目指す保育のあり方を明確にした上で、副園長が現場に立って保育士の指導に当たられています。職員一人ひとりの目標や達成期限などをより具体化することで、更なる資質の向上に繋がれることを期待します。		
18	- 2 - (3) - 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a ・ b ・ c
<コメント> 個別の研修計画については、本人の希望を踏まえた上で検討されています。職員一人ひとりの客観的な技能の評価に基づく研修計画の策定については、更なる取り組みを期待したいところです。		
19	- 2 - (3) - 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a ・ b ・ c
<コメント> 職員の経験や役割に応じた研修の機会が設定され、研修案内の回覧による選択の機会も確保されています。職員の経験や習熟度に応じたOJTの仕組みについては、更なる充実を期待します。		

- 2 - (4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	- 2 - (4) - 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>実習生受入れマニュアルが整備されており、実習生を積極的に受け入れられています。実習生が話しやすいように年齢が近い職員を指導補助者に任命するなど、未来の福祉を担う人材を大切に育むための配慮もうかがえます。</p>		

- 3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
- 3 - (1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	- 3 - (1) - 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>理念及び方針をはじめとする園の情報については、園のしおりやホームページにより公開されています。しかし、パンフレットやホームページの充実については、更なる工夫を期待します。</p>		
22	- 3 - (1) - 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>経理規程が整備されており、職員にも閲覧されています。会計処理については税理士によるチェックを受けられており、指導・助言に基づく見直しも行なわれています。公正性や透明性の確保と安定した経営・運営の実現に向けて、定期的・継続的に外部監査を受けられることを期待します。</p>		

- 4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
- 4 - (1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	- 4 - (1) - 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>地域の社会資源などの情報は、プリントや掲示版などにより随時提供されています。ひな祭り会などの園行事に地域の人を招待したり、地域の恒例行事に参加したりしながら地域との交流を深められています。</p>		
24	- 4 - (1) - ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>ボランティア受け入れマニュアル及び受入体制が整備されています。ボランティアを地域交流の一つの窓口として位置づけ、積極的な受け入れを心がけられています。</p>		
- 4 - (2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	- 4 - (2) - 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>質の高い保育サービスの提供に向けて関係機関との連携が図られています。支援が必要な子どもに関しては、実際に療育センターや保健師、行政等と連携した取り組みが行われており、気になる子どもに対しての巡回指導なども受けられています。</p>		
- 4 - (3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	- 4 - (3) - 福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>地域のニーズにもとづき、一時保育や園庭開放などに取り組まれています。園が有する機能を積極的に地域へ還元するまでの取り組みには至っていない状況がうかがえます。</p>		

27	- 4 - (3) - 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 地域の子育てニーズに基づき、延長保育や一時保育(自主事業)が行われています。また、第三水曜日には就学前の子どもに園庭を開放されています。</p>		

評価対象 適切な福祉サービスの実施

- 1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
- 1 - (1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	- 1 - (1) - 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 「子供の主体としての思いや願いを受け止める」といった基本方針に基づき、日々の保育が展開されています。研修や勉強会のほか、「望ましい保育士像」や「NGワードマニュアル」などが整備されており、子どもの人権尊重について理解が深まるよう工夫されています。</p>		
29	- 1 - (1) - 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 子どもの虐待防止や権利擁護については、外部研修受講や園内勉強会などで知識を深められています。しかし、子どもの排泄や着替えの場面でのプライバシーへの配慮については、更なる取り組みを期待したいところです。子どもの羞恥心への配慮や外部からの視線についての対策など、施設・設備面における更なる工夫とマニュアル等の充実などが求められます。</p>		
- 1 - (2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。		
30	- 1 - (2) - 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a ・ b ・ c
<p><コメント> ホームページのほか、市役所の担当窓口で園のしおりを置いて情報が提供されています。入園希望者や見学希望者に対しては、主任保育士や担当保育士による個別の説明や案内が行われています。</p>		
31	- 1 - (2) - 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 新規で保育園を利用される保護者に対しては、事前に来園いただいで個別対応が行われています。入園のしおりを園での過ごし方や給食、年齢ごとに準備する物などについての説明が行われています。また、進級した子供の保護者へは進級式の後に説明が行われています。</p>		
32	- 1 - (2) - 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 個人情報保護の観点から転園先への情報提供については、園長の許可の下で問い合わせに応じられているといった状況です。卒園児や卒園児の保護者からの相談については、主任保育士や担当保育士が窓口となって対応されていますが、いつでも相談できることについての説明は口頭により行なわれているといった状況です。 保育の継続性への配慮として、転園先への引継ぎ手順や文書の整備及びサービス終了後の相談対応に関する文書での説明などが求められます。</p>		

- 1 - (3) 利用者満足の上向上に努めている。		
33	- 1 - (3) - 利用者満足の上向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a ・ b ・ c
<コメント> 行事ごとにアンケートが実施されており、サービス向上委員会で把握された結果の分析、改善に取り組まれています。保護者懇談会や個人面談が行われており、子どもについての心配事や要望などの把握に努められています。		
- 1 - (4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	- 1 - (4) - 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a ・ b ・ c
<コメント> 苦情解決責任者、受付担当者、第三者委員が任命されており、苦情解決の仕組みが構築されています。苦情の受付から解決までの経過は記録に残されており、フィードバックや公表も行われています。しかし、苦情解決の仕組みについての周知は、入園のしおりの配布と口頭での説明のみとなっています。保護者に対する周知を継続的なものとするためには、掲示による周知への取り組みも求められます。		
35	- 1 - (4) - 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a ・ b ・ c
<コメント> 相談室が設けられ、相談や意見についても入園のしおりの苦情解決の仕組みの紹介の中で説明されています。しかし、複数の相談方法や相談相手を選べることについての周知への取り組みは、十分とは言えない状況が見受けられます。		
36	- 1 - (4) - 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a ・ b ・ c
<コメント> 「意見・要望・苦情・不満を解決するための仕組みに関する規定」が整備されており、保護者からの相談等に対しては、否定的な言葉を用いずに傾聴の姿勢を心掛けられています。		
- 1 - (5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	- 1 - (5) - 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a ・ b ・ c
<コメント> 安全管理委員会が組織されており、危機管理マニュアルも整備され、リスクマネジメントの研修へも参加されています。ヒヤリハットの事例検討については、園内研修において要因分析や改善策が講じられ、再発防止に努められています。また、安全点検も定期的実施されています。		
38	- 1 - (5) - 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a ・ b ・ c
<コメント> 感染症対策マニュアルが整備され、研修への参加や園内での勉強会により職員への周知が図られています。各クラスには、消毒薬や感染症対策グッズも準備されています。保護者に対しては、掲示や送迎時の説明により感染症発生状況が報告され、保健だよりでは予防に関する情報提供なども行われています。		
39	- 1 - (5) - 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a ・ b ・ c
<コメント> 危機管理マニュアルの中で火災や自然災害時の対応が定められ、消防署の指導による避難訓練も含め毎月1回の訓練に取り組まれています。しかし、災害時の子どもや職員の安否確認の方法の確立及び職員への周知に向けた取り組みについては更なる工夫を期待したいところです。避難場所として地域の人々の受け入れを行なった場合なども想定した備蓄についての再考や災害時の保護者会との連携などについても更なる取り組みを期待します。		

- 2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
- 2 -(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	- 2 -(1)- 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>保育のしおりに基づき保育が行われており、副園長や主任保育士による指導の下で子どもを主体とした保育に取り組まれています。今後の課題としては、子供の羞恥心に対する配慮やプライバシー保護についてのマニュアルの整備などが挙げられます。</p>		
41	- 2 -(1)- 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>標準的な実施方法に限らず、マニュアルや手順の見直しについては保護者へのアンケートなどにより把握した意見や、年度末に各クラスで出された意見を基に、主任保育士とクラスの主任で見直しが行われています。</p>		
- 2 -(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	- 2 -(2)- アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>児童票(保育要録)で子供の心身の発達状況や予防接種歴などが把握され、子供に対する保護者の思いや教育方針などの把握にも努められています。必要に応じて看護師や栄養士も参画してのアセスメントが行われ、気になる子どもなど配慮が必要な場合には関連機関との連携も図られています。</p>		
43	- 2 -(2)- 定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>指導計画は定期的に評価と見直しが行われています。各クラスで見直しが行われ、主任保育士・副園長・園長による確認が行われています。緊急に計画を変更する必要性が生じた場合には、副園長と主任保育士により検討され、職員会議において全職員への周知が図られています。</p>		
- 2 -(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	- 2 -(3)- 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>子どもの個人記録や年齢ごとの記録を基に、主任保育士・副園長による保育の実施状況の確認が行われています。記録の差異をなくすために記録に関する研修への参加や勉強会が行われ、記録の内容についての指導も行われています。</p> <p>申し送りや職員会議への参加、会議録などの回覧により情報を共有できるように努められており、必要な情報が確実に届くように情報の分別も行われています。</p>		
45	- 2 -(3)- 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a ・ b ・ c
<p><コメント></p> <p>施錠できる場所での保管や保存年数、廃棄方法、情報の開示などについて定められた個人情報管理規定が整備され、規定に沿った対応が行われています。職員に対しては研修や職員会議により周知が図られており、保護者からは写真等の取り扱いに関して同意書による同意が得られています。</p>		

評価対象

A - 1 保育所保育の基本

		第三者評価結果
A - 1 - (1) 養護と教育の一体的展開		
	A - 1 - (1) - 保育所の保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育課程を編成している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>保育課程は、保育所保育指針等の趣旨を捉え、養護と教育の面から発達や成長を大切に、地域の実態及び子どもや家庭の状況を考慮しながら全職員参画の下で編成され、保育目標を立てて保育実践に繋がられています。</p>		
	A - 1 - (1) - 乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>乳児保育については24時間を考慮した連絡帳が用いられており、保護者との連携を図るとともに、複数担任が情報を共有できるものとなっています。職員は担当制になっており、一人ひとりの愛着関係の形成を大切にされています。睡眠時の観察によるSIDS対策では、呼吸や健康状態の確認が行われており、安全で安心した保育の提供に努められています。</p>		
	A - 1 - (1) - 1・2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>連絡帳や送迎時のコミュニケーションによって心身の状態を把握したり、保護者との連携を図ったりしながら、複数担任が共通理解を持って基本的な生活習慣を身につけられるように工夫されています。探索活動が出来る保育環境や3歳未満児間での交流など、保育内容における環境づくりにも取り組まれています。</p>		
	A - 1 - (1) - 3歳以上児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>週案(週の指導計画)による日々の計画の下で活動が行われ、集団の中での遊びや当番活動を通して、自己肯定感や社会性を育む保育が実践されています。連絡帳に子どもの様子が毎日丁寧に書かれており、保護者への配慮も大切にされていることがうかがえます。</p>		
	A - 1 - (1) - 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかわりに配慮されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>5歳児には、小学生との交流の機会が設けられています。職員は小学校教員との意見交換や連携セミナーに参加されています。保護者と一緒に学校を体験する機会も設けられ、小学校への不安軽減とともに、入学後の見通しが持てるように配慮されています。</p>		
	A - 1 - (1) - 職員の接し方について、児童ひとりの個人として尊重する取り組みを行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「NGワードマニュアル」を用いたの園内研修が行われており、人権研修にも参加されています。丁寧な言葉遣いや対応の実践が行われており、適切な対応ができていない場合には、その都度主任保育士若しくは副園長による指導が行われています。</p>		

	A - 1 - (1) - 入園当初の環境変化に対応できるよう支援している。	a ・ b ・ c
<コメント> 入園前の面接を大切にされており、子どもに関する情報収集が丁寧に行われ、入園後の子どもの精神的・肉体的負担の緩和に繋がられています。入園時には必要に応じてならし保育が行われ、場合によっては安心できる好きな物の持ち込みも受け入れられています。		
A - 1 - (2) 環境を通して行う保育		
	A - 1 - (2) - 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が整備されている。	a ・ b ・ c
<コメント> 施設内は明るく清潔に保たれ、温度・湿度についてもこまめに調節されています。また、木の暖か味が感じられる優しい造りになっており、未満児の保育室においては地中熱を利用した地球環境に優しいジオパワーシステムが導入されています。		
	A - 1 - (2) - 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている。	a ・ b ・ c
<コメント> 一人ひとりの成長段階や生活リズムを考慮し、排泄や着脱、食事などについて子どもの“じぶんで…”や“できた。”という気持ちを大切にしながら、見守りや声かけ、援助が行われています。積極的に園庭遊びが出来るように、登降用とは別に活動用の靴が園庭に面した靴箱に個別に用意されています。		
	A - 1 - (2) - 子どもが主体的に活動し、様々な人間関係や友だちとの協同的な体験ができるような人的・物的環境が整備されている。	a ・ b ・ c
<コメント> 縦割り保育(ふれあいタイム)や土曜日の合同保育を通して、異年齢の子ども同士で様々な体験が出来るように交流活動が取り入れられています。当番活動では、事務室への人数報告や食事の配膳、献立の紹介、食事の挨拶などが行われています。		
	A - 1 - (2) - 子どもが主体的に身近な自然や社会とかがかわれるような人的・物的環境が整備されている。	a ・ b ・ c
<コメント> 「やまが中央お散歩マップ」が作成されており、散歩や園外保育を通して四季折々の植物の観察や生き物に触れ、自然への興味・関心を高める機会に繋がられています。近隣の公園や施設へ出掛けたり、地域の伝統的行事で伝統舞踊を踊ったりする機会も設けられています。		
	A - 1 - (2) - 子どもが言葉豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている。	a ・ b ・ c
<コメント> 日々の保育の中で絵本や紙芝居の読み聞かせが積極的に行なわれています。3歳以上児は、放送タイムで一斉にお話を聞いたり、外部講師による英語教室に参加したりと様々な言葉に触れる機会が設けられています。朝の会の時には当番への質問タイムを設けるなど、表現活動にも工夫が凝らされています。玄関付近には絵本コーナーを設け、絵本の貸し出しも行われています。		
	A - 1 - (2) - 施設・設備に関して、子ども・保護者や来所者が利用しやすいよう配慮した取り組みを行っている。	a ・ b ・ c
<コメント> 園舎内には、案内図やルームプレートが掲げられています。また、バリアフリー化もされており、利用しやすい構造になっていると言えます。ランチルームの一角にDEN(穴倉・隠れ家)を設けるなど、子どもが楽しんだり落ち着いたりできる空間づくりへの工夫も見られます。手洗い場の位置や高さ、数などへの配慮や、ドアへの危険回避対策なども施されています。		

A - 1 - (3) 職員の資質向上		
	A - 1 - (3) - 保育士等が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が図られている。	a ・ b ・ c
<コメント> 保育士のための自己評価チェックリストや当該評価における自己評価票を活用されています。日ごろの保育実践を振り返ることにより、保育スキルの向上に繋げるよう努められています。		

A - 2 子どもの生活と発達

		第三者評価結果
A - 2 - (1) 生活と発達の連続性		
	A - 2 - (1) - 子ども一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われている。	a ・ b ・ c
<コメント> 子ども一人ひとりの家庭環境や生活リズム等の違いを把握し、個々に応じた援助を行うよう努められています。等身大の子どもを受けとめ、制止する言葉を不用意に用いないよう全職員で心がけられています。		
	A - 2 - (1) - 障害のある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a ・ b ・ c
<コメント> 現在、障害のある子どもの利用はなく、気になる子どもへの対応を通して、情報の共有化や研修などに取り組み、スキルの向上に努められています。また、関連機関との連携も図られています。		
	A - 2 - (1) - 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a ・ b ・ c
<コメント> 一日を通して安心して健やかに過ごせるように、休息と活動のメリハリのある保育計画が策定されています。給食やおやつを提供などでも長時間保育に対する配慮が見られます。延長保育に専任の保育士を配置し、個人の連絡帳やクラスの伝達ノートを活用して確実に情報を伝達しながら、安心して安全な保育の提供に努められています。		
A - 2 - (2) 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場		
	A - 2 - (2) - 子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	a ・ b ・ c
<コメント> 入園面接で子どもの状況を把握し、既往症や予防接種の状況などを記録に残されています。登園時には連絡帳や視診・触診などにより、子どもの健康状態の把握に努められています。子どもの怪我や体調悪化については、マニュアルに沿った対応が行われています。		
	A - 2 - (2) - 食事を楽しむことができる工夫をしている。	a ・ b ・ c
<コメント> 食事をする場所は保育室のほか、ランチルームやテラスなどを活用されています。食事の前には歌を歌われており、歌詞にその日のメニューを反映させるなど、楽しい食事時間を演出されています。調理室は園の中心にあり、子どもたちが調理の様子を見たり、匂いを感じたりすることができます。		
	A - 2 - (2) - 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。	a ・ b ・ c
<コメント> 栄養士や調理師は子どもと一緒に食事をすることで状況を把握し、献立や調理の工夫に繋がられています。全園児のカウプ指数(乳幼児の発育状態の程度を表す指数)を把握され、個別対応などに繋がられています。		

	A - 2 - (2) - 食育の取り組みを行っている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 食育計画が策定され、保育計画の中に活動が位置づけられています。また、給食担当職員と保育士による給食会議が行われ、食の充実も図られています。 旬の食材を取り入れることを心がけ、郷土料理や伝統料理の食文化を体験する機会も設けられています。また、親子会食会や親子クッキングなどの行事にも取り組まれています。</p>		
	A - 2 - (2) - 健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 健康診断や歯科検診の結果は記録に残し、職員間において情報の共有化が図られるとともに、保護者にも報告されています。保育実践では、うがいや3歳以上児のフッ素洗口などに取り組まれ、感染症対策や虫歯予防などに繋がられています。</p>		
A - 2 - (3) 健康及び安全の実施体制		
	A - 2 - (3) - アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> アレルギー対応マニュアルが整備されています。アレルギーのある子どもに対しては、医師の指示書に従い除去食が提供されており、全職員への周知も図られています。給食室には外部から見えない位置にアレルギーのある子どもの名前と食材を掲示し、調理や配膳に間違いが起らないように努められています。</p>		
	A - 2 - (3) - 調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒の発生時に対応できるような体制が整備されている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 給食衛生管理マニュアルが整備されており、常に清潔を保てるように定期的な点検などに取り組まれています。食中毒に関しては、研修へ参加するなど最新情報の入手などに努められています。</p>		

A - 3 保護者に対する支援

		第三者評価結果
A - 3 - (1) 家庭との緊密な連携		
	A - 3 - (1) - 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 毎月の献立が「給食だより」として保護者に配布され、延長保育の献立も知らされています。3歳未満児の保護者は家庭での朝食メニューを連絡帳に記入し(0歳児は夕食も記入)、保育者は園で食べたものを連絡帳に記入するといった取り組みが行われており、家庭との食に関する情報の共有化や連携が図られています。給食とおやつサンプルが玄関に展示され、そのそばには自由に手にすることができるよう人気食のレシピが数点置かれています。</p>		
	A - 3 - (1) - 家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 年齢に合わせて園独自の連絡帳が準備されており、連絡帳や送迎時の会話などで日常的な情報交換が行われています。園と家庭が子どもの情報を共有しながら信頼関係を築かれています。</p>		
	A - 3 - (1) - 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けている。	a ・ b ・ c
<p><コメント> 入園説明会において、保護者全員の共通理解を必要とする事項については園長が説明されています。入園後は保育参観やクラス別の懇談会、個人面談などで子どもの発達や育児について保護者と共通理解を深めるよう努められています。</p>		

	A - 3 - (1) - 保護者組織の活動に対する援助や意見交換を行っている。	a・b・c
<p><コメント> 保護者会への場所の提供や保護者会からの依頼に応じた文書作成・配布など、保護者会の活動を側面的にサポートされています。保護者会との窓口は主に園長が担われていますが、保護者会行事には職員も参加されています。</p>		
	A - 3 - (1) - 虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている。	a・b・c
<p><コメント> 虐待防止に関するマニュアルが整備され、職員への研修も行われています。食事の有無や身体の傷、衣服の汚れ、表情など、子どもの状態には常に気を配り、虐待の早期発見に努められています。発見者から主任保育士、副園長、園長へと報告され、専門機関に連絡する仕組みも構築されています。</p>		

(参考)

	第三者評価結果		
	a	b	c
共通評価基準（評価対象 ～ ）	27	18	0
内容評価基準（評価対象A）	29	0	0
合 計	56	18	0